

文化

父の背を 見て育つた
 ら この程度
 都内タクシー 禁煙開
 始 愛煙客から 煙たが
 れ
 格差社会へ上流、中流、
 下流、底流
 東京・神田のオフィス
 街の一角にある集会室。
 ここに集まったメンバー
 たちが順番に自作のジョ
 ークを披露すると、どっ

と笑い起きた。

入るも退くも自由
 私たちは「同業会・ジ
 ョークサロン」のメンバ
 ー。毎月第四水曜日の夜
 に例会を開き、競い合い
 ながら笑いのセンスに磨
 きをかけている。冒頭で
 紹介したのは藤井敬三、
 高木正明、石井津夫の
 各氏の作品である。

川柳、狂歌、都々逸、
 駄洒落、小唄、なぞ掛け、
 ものは付け、コント、替
 え歌などメンバ
 ーの得意技は多
 種多様。伝統的
 なジャンルだけ
 でなく、パソコ
 ンを駆使してビ
 ジュアルな表現
 で笑わせる人も
 いる。定年で会
 社を卒業した
 人、現役社員、



例会の様子—写真 田中 均明

発笑の地ジョークサロン

◇多士济々、毎月の例会で練り上げた作品を披露◇

オン商事(東京・墨田)
 の相談役、山下廣蔵さん
 が提唱して異業種交流の
 サロン「同業会」が設立
 された。山下さんはジョ
 ーク愛好家として知ら
 れ、同年七月に同業会の
 グループ活動として「ビ
 ジネスジョークの会」が

けず、入るも自由、退く
 のも自由と運営はいたっ
 てオープン。毎月の例会
 に参加する場合は男性千
 円、女性五百円のカンパ
 をいただいております、それ
 を元手に例会で発表した
 作品を掲載する会報「伝
 笑鳩」を発行している。
 その気軽さが長く存続し
 ている理由だろう。

本とし、良質なユーモア
 を創作することを志向し
 ている。
 例会ではこの一カ月間
 で練りに練り上げた自慢
 の作品を仲間の前で披露
 する。もっ少しメンバー
 の作品を紹介しよう。
 「賞味機嫌切 消費者」
 (平井幸雄)、「おみくじ
 を 引けば出てくる 凶
 の札 凶は今日だけ 明
 日から吉だ」(野本浩一)、「
 『お父さんは何座?』上
 座に決まっているのだら
 う」(岡野股子)

「泡沫の 候補の舌戦
 泡を吹き 選挙終われ
 ば 泡と消え去る」(佐
 藤忠恕)、「仕事に没頭
 するか 仕事にぼーとす
 るか」(柴本和夫)、「接
 待絶命 守屋前次官」(門
 口泰宣)

好奇心のアンテナを張
 り巡らし、でくわした事
 象にときめきやひらめき
 を感じれば、そこからジ
 ョークの発想が生まれて
 くる。笑いは健康にもい
 いし、脳を活性化する。
 メンバーの平均年齢は六
 十歳を超えているが、笑
 いこそが柔軟な脳を保つ
 秘訣だと思っている。
 若い世代や女性の参加
 を期待している。ギャラ
 リー参加も大歓迎。ジョ
 ークの創作にお金はいら
 ない。庶民にはうってつ
 けの趣味だ。今後とも笑
 品快発集団として、オ
 ヤジギャクなどと冷やか
 されたいように笑いを磨
 いていきたい。(もんぐ
 ち・やすのぶ(会社社員))

門 口 泰 宣
 生まれた。
 その年の暮れ、山下さ
 んが急逝され、残された
 メンバーが遺志をついで
 現在の「同業会・ジョ
 ークサロン」を立ちあげた。
 私を含め今の古参メンバ
 ーの大部分は、サロンを
 紹介する新聞記事をきっ
 かけに参加し始めた。
 年会費というものを設



不正や不条理なことに対
 する怒りも作品作りのパ
 ネになる。ジョークサロ
 ンではプロの物まねでは
 なく、素人の良さを生か
 したオリジナル作品を基

会報は現在、四百部発
 行している。例会には参
 加できなくてもジョーク
 に関心のある人、ちょっ
 と笑ってみたいという全
 国の人たちとの交流の場
 でもある。私は二代目の
 「変集鳥」なる肩書で約
 八年間、編集を担当した。
 最近ホームページも開設
 し、電笑鳩を全国に飛